

前回検討会における意見等と 対応状況・方針

令和4年9月

沖縄県土木建築部八重山土木事務所

議事(1) 浦内橋架替工事に係る環境モニタリング検討会設置要綱について

区分	指摘/指導・助言内容	対応状況・方針	資料等
議事録について	環境モニタリング検討会の議事概要ではなく、議事録は作成しないのか。	公開する検討会資料、議事概要とは別に議事録を作成する。	参考資料-3
委員構成について	マングローブ、干潟（生態系）、水文の専門家が必要ではないのか。	モニタリング期間中に疑義があった場合に、適宜、専門家に相談する。必要に応じて、検討会委員の追加を検討する。	-

議事(2) 工事前（事前）環境モニタリング調査結果の報告について

区分	指摘/指導・助言内容	対応状況・方針	資料等
水質調査について	出水時（降雨時）の調査も必要ではないか。	工事前に実施した出水時の調査結果を整理したほか、工事期間中についても随時実施する。	資料-3(p1) 参考資料-2(p2)
出現種リストについて	外来種と在来種に分けたほうが良い。	外来種と在来種が分かるよう再整理した。	参考資料-2 (p4~7,12~18, 23~26)
	マングローブ林で確認された植物のリストを別で作成できないか。	参考として、干潟で実施した群落組成調査地点での出現種を整理した。	参考資料-2(p10)
	水生生物の魚類の出現リストのヒメハゼ属-3、-4などの出典を明記した方が良い。	出現種リストに引用した図鑑、文献等の出典を明記した。	参考資料-2(p24)
	工事中の個体数の変化も留意した方が良いので、個体数のデータがあった方が良い。	魚類の個体数については、CR法や概数を記録しており、個体数に変換した値を示した。	資料-2(p20~24) 参考資料-2 (p23~26)
浦内橋周辺状況について	流況、水深、底質（粒度組成）のデータはあるのか。	航空写真による滞筋の状況から流況については把握している。底質は、令和4年梅雨期後より調査を実施している。	資料-2(p25~28) 資料-3(p4)

議事(3) 工事中の環境モニタリング調査結果の報告【速報版】について

区分	指摘/指導・助言内容	対応状況・方針	資料等
陸上植物について	希少植物種の移植後の生育状況調査結果の図中の凡例について、移植した株が流されたものもあり、「枯死」と「流失」は違うことから区別した方が良い。	「枯死」と「流失」を区別して整理した。	資料-2(p4~6)
陸上動物について	陸上動物の希少動物種の移動は、希少種のみではなく、一般種も移動してほしい。	移動先の生態系攪乱の可能性を考慮し、希少動物種の移動については、希少種のみを移動することとしており、今後もその方針とする。	-
	カンムリワシの調査では、GPS発信機を付けた調査も行われており、その専門家からアドバイスしてもらった方が良いのではないかと。	カンムリワシの調査方法、行動範囲については、専門家の意見を踏まえ、調査内容について、検討し、令和4年3月より、検討した内容で調査を実施している。	資料-2(p14) 資料-3(p2)
	カンムリワシの繁殖期（春先）に工事をしない方が良いが、専門家と相談しながら、行ってはどうか。	カンムリワシの繁殖期間中における工事については、モニタリング調査を実施し、繁殖行動への影響の程度を確認しながら、実施している。	-
	イリオモテヤマネコのロードキルに関して、環境省とリアルタイムで情報交換を行い、危険個所には看板設置するなどの対策が必要ではないかと。	イリオモテヤマネコの目撃例は西表野生生物保護センターへ情報提供しており、環境省と相談しながら、こういった対策がとれるのか検討する。	-
	資材搬出入港での外来生物の調査をお願いしたい。	搬出入港での外来生物調査を実施しており、環境省が作成予定のマニュアルも参考にしながら実施する。	-
水生生物について	注視すべき底生魚のニセツムギハゼやニセシラヌイハゼなど目視で確認できるものについて、一定範囲の個体数を把握した方が良い。	これまでも各地点においてCR法を用いた概数を把握しており、大まかな変化は掴めるものと考えている。これまでの調査に合わせて一定範囲におけるニセシラヌイハゼの個体数把握を行う。	資料-3(p3)

議事(3) 工事中の環境モニタリング調査結果の報告【速報版】について

区分	指摘/指導・助言内容	対応状況・方針	資料等
水生生物について	浦内橋周辺の水深の調査は、仮橋（鋼管杭打設）ができた時、濁筋の変化が想定されることから、流心付近に水深の測定ラインを下流側に増やした方が良い。	水深の測定ラインを浦内橋より、約100m下流側に1側線追加し、令和4年梅雨期後より調査を実施してる。	資料-2(p27)
環境教育について	工事期間中、事業者や工事業者の人員が入れ替わっても保全対策がしっかり引き継がれるような体制を構築する必要がある。	工事業者が入れ替わるたびに、環境教育を実施する。	資料-3(p3)

議事(4) 今後のモニタリング調査内容及び工事計画について

区分	指摘/指導・助言内容	対応状況・方針	資料等
陸上植物について	ヒルギモドキ、ヒルギダマシの移植先を再検討する必要がある。	令和4年5月に新たな移植先を検討、追加し、ヒルギモドキを移植した。	資料-2(p3)
	ヒルギ類の分布状況調査は、下流側に調査地点を増やした方が良い。	下流側に調査地点を3地点追加し、令和4年春季より調査を実施している。	資料-2(p7~9)
	外来植物のアメリカハマグルマの駆除は行う場合、結実期なども考慮して駆除の時期や回数について具体的な計画を検討した方が良い。	架替工事施工箇所におけるアメリカハマグルマについては、駆除を行う予定であるが、工事前より生育していた箇所での駆除を行わない。	-
陸上動物について	外来種は資材に紛れて侵入するので、4季など定期での調査ではなく、資材の搬入などにあわせて実施してほしい。	環境モニタリング調査の4季調査とは別で資材搬出入時に工事業者による外来生物の確認を実施している。今後は、環境省が実施している外来生物調査と連携を図りながら、外来生物の確認調査を実施する。	-

議事(4) 今後のモニタリング調査内容及び工事計画について

区分	指摘/指導・助言内容	対応状況・方針	資料等
水生生物について	面的に水深の変化が把握できる等深図があった方が良い。	水面下の状況については使用機種で把握することは難しいため、等深図を作成することは困難と考えている。浦内橋周辺の測深箇所を増加することで、工事による影響の把握に努める。	-
検討会について	環境モニタリング検討会の開催頻度が年1回なので、リアルタイムに情報提供してほしい。	モニタリング期間中に異常があった場合は、速やかに各委員に情報提供を行う。また、環境省へ四半期ごとに報告している定期報告書を各委員に提供する。	-
モニタリング計画について	今後の環境モニタリング調査内容については、修正したものを事前に見せてほしい。	今回の環境モニタリング検討会での指摘事項や専門家からの意見を踏まえた修正版を提示する。	資料-3